

## 第2回事業総点検（外部点検）会議録（要旨）

平成23年7月28日9:30～11:30

伊勢市役所 東庁舎4-2会議室

### ■会長

それではよろしくお願いたします。前回、事業の説明はわかりやすかったですが、事業が当該課の中でどのような位置付けになっているか、総合計画の中でどのような位置付けになっているかについての情報がありませんでしたので、点検するにも情報不足でやりにくい面がありました。その点について、今回以降追加説明していただくことにしました。前は1事業40分で、そのうち最初の10分間で事業説明をお願いしていましたが、事業説明を5分延長し、そのなかで事業の位置付け等を説明していただくようお願いしました。5分延長しますので、1事業45分を目途に進めていきたいと思っております。それでは、本日最初の事業「伊勢のまつり開催事業」の説明をお願いします。

## 伊勢のまつり開催事業

### ●市民交流課長

よろしくお願いたします。市民交流課では、男女共同参画を担当する男女共同参画係、地域自治・自治会を担当する地域自治推進係、市民活動、地区コミュニティセンター、国際交流、伊勢まつりを担当する市民交流係の3係14名で業務を行っています。今回の伊勢のまつり開催事業は、市民が見て、参加して、楽しめる事業を通じて、市民の一体感を醸成するとともに、市民文化の向上、ふるさとづくりの推進を目的としています。

市町村合併の前の各地の祭りとしては、旧伊勢市ではお伊勢大祭が明治28年から開催されてきました。旧二見町では、めおとフェスタメモリアルキャンドルが平成9年から開催されてきました。旧小俣町はおばたまつりが平成9年から開催されてきました。旧御菌村は御菌ラブリバーふれあい祭りが平成3年から開催されてきました。平成17年の市町村合併の前後に、財政状況を踏まえて祭りへの支援を見直すこととなり、各地域の祭りに対する補助金や負担金等の財政支援、事務局業務などの人的支援、まつり運営の見直し等を整理することになりました。その結果、旧二見町のめおとフェスタメモリアルキャンドルは平成16年度で終了しています。旧御菌村の御菌ラブリバーふれあい祭りは、合併後5年で財政支援や御菌地域振興課が行っていた人的支援がなくなるのと同時に終了しています。旧小俣町のおばたまつりについては、財政支援、人的支援がなくなりますが、引き続き地元で開催する予定と聞いております。旧伊勢のお伊勢大祭については、平成18年度に各まつりの団体の代表者と行政で新市のまつりについて協議を始めさせていただきました。平成19年度に、伊勢市民まつり検討プロジェクトチームを立ち上げ、それまで一緒に行われることで誤解や弊害が誘客目的の神嘗奉祝事業と市民まつりを完全分離しました。平成20年度にお伊勢大祭を発展的に解散し、伊勢市民まつり実行委員会が発足しました。平成21年度から観光行事振興事業としての位置付けから市民交流推進事業に位置付けし、担当課も観光事業課から市民交流課へ変わりました。本年度は10月15日、16日を予定しております。

合併当初は 900 万円あった負担金も平成 21 年度からは 650 万円となっています。市の職員の動員については、当日のスタッフとして市民交流課の職員で対応しています。事務局体制は市ができる最低限のこととして 2 名体制で実施しています。

現在 65 名からなる実行委員会ですが、自分たちの祭りを自分たちで考えて開催していくというコンセプトで実施していますので、企画、運営、準備、片付けまで参加者と一緒にしていただいています。年々行政への依存度も低くなってきており、市民主体の運営体制が確立しつつあると考えています。行政の役割としては、まつりを安全・安心、健康で衛生的に行われるように、その部分についての財政面、人的支援を実施していく必要があると考えています。そのため、交通規制の看板の設置、警備員の配置、照明器、仮設トイレの設置、警察との協議などを事務局が実施しています。

この事業の 4 つの視点の自己評価について説明します。①社会的需要については、年 1 回開催される地域最大のまつりですので、新市における市民の一体感を醸成するためのまつりとして、市として会場づくりを支援していく必要があると考えています。②公平性については、伊勢市民全体が対象となるため、公益性が高いと考えています。③業務改善については、旧 4 市町村時代からいろいろと協議をして、市民の一体感が生まれるまつりとして市民の皆さんに考えていただきました。当日の職員の出務も減らし、実行委員会主体の運営をお願いしています。④民間委託については、実行委員会主体で企画、運営をしていただいていますので、市への依存度が減っています。コンセプトどおりに、自分たちのまつりを自分たちで考えるという方向に向かっていると思います。ただし、実行委員会の方にも仕事があり、全てを民間の方にというのには限界があるので、市が担う部分も必要だと思っています。以上です。

## ■会長

ありがとうございます。ご質問があればお願いします。

## ■委員

実行委員会方式にされていますが、具体的に従前のやり方から内容などをどのように変えましたか？

## ●市民交流課長

以前は事前の準備に市がすべて関わってきました。今は実行委員会が自分たちでどのようにして行くかを考えていただいています。市は会議に参加はしますが、雑務という形で中に入らせていただいています。

## ■委員

実行委員会は総勢 65 の団体と書いてあり、参加団体は平成 22 年度で 209 団体ですが、実行委員会のメンバーはどのように選ばれるのですか？

## ●市民交流課長

参加している団体がすべて実行委員会に入っているわけではありません。協力していただける団

体が実行委員会に入っただけです。

■委員

参加団体の中から、やってやろうという人が入っただけということですか？

●市民交流課長

そのとおりです。昨年もアンケートを取らせていただいた結果、まだ参加だけでいいという団体の方もおられます。そういった方々が運営の方にも入っただけると良いと思っています。

■委員

実行委員会へは、団体からの参加か個人での参加となっていますが、個人で参加される方もおられますか？

●市民交流課長

現在、まつりには参加していないが、まつりが好きなので運営に携わりたいという方も見えます。

■委員

個人の方もいますか？

●市民交流課長

個人の方もいます。

■委員

まつりには団体で参加することになっています。団体に所属していないとまつりには参加できないのですか？

●市民交流課長

パレードなどは、一人でパレードするということも考えにくいのでチームを作って参加していただいています。小さなステージであれば数人で披露することも考えられますが、出ていただく方が一人では出にくいという面もあるかと思います。可能ですが。

■委員

昨年度 209 団体について、旧市町村別の団体の参加割合などはわかりますか？一体感を醸し出すためにやっているのであれば、旧町村からも出ていると思いますので。

●市民交流課長

団体のメンバーの中には、旧市町村の人が入られていると思いますが、どの団体がどこの旧市町村出身であるということは把握しておりません。ただ、各地域においてメインで活躍されていた方々

には参加していただいています。

■委員

今年は神嘗祭と同時開催と聞いていますが、同時開催すれば予算的には同じだけかかるのですか？

●市民交流課長

神嘗奉祝祭を伊勢まつりと同じ場所で開催しますので、(神嘗奉祝祭の)経費は削減される部分もあると思います。

■委員

以前は伊勢まつりと神嘗祭は一緒に行われていたのですよね？今後、また一緒にしていったらどうかという市民の方の声もありますが、今のところそのような考え方はありませんか？

●市民交流課長

伊勢まつりについては、市民のまつりなので、実行委員会としては土日開催を考えてもらっています。神嘗祭は10月15日、16日になりますので、それを土日に変更できるかどうかなど、調整の問題になってきます。今年は暦のうえで15日、16日が土日なので一緒にさせていただくことになりました。

■委員

市を上げた大きなまつりなので、市の関与は必要だと思いますが、今後民間委託を増やしていくことは可能ですか？

●市民交流課長

今後、どのような民間委託が可能か考えているところですが、実行委員会の皆さんは仕事を持ちながら一緒に活動していただいているという実態がありますので、細かい申請などまでお任せするという事になると、これ以上お願いするのは難しいかなと思います。

■委員

経費としては、この事業費にプラスして事務局の間接経費もプラスしてかかっていることになりますよね？その辺りはどの程度かかっているのですか？

●市民交流課長

職員は他の業務も行いながらこの事業の業務もしています。夜間の会議などに係る時間外勤務にかかる人件費はそのまま経費になると思います。

■委員

一人当たりの年間に占める業務割合はどの程度ですか？

●市民交流課長

三割程度だと思います。

■委員

この事業の総予算（実行委員会の総予算）はどれだけですか？市の負担する額が、実行委員会の総予算のどれほどの比率を占めていますか？

●市民交流課長

伊勢まつり実行委員会の総予算は1,130万円程度です。その中で会場費として約670万円を使っています。あとは寄付、協賛金を集めていただいたり、出店料として集めていただいたりしています。これは実行委員会の皆さんが自ら集めていただいています。

■委員

平成21～23年度にかけて、予算にほとんど変更がありません。総予算に占める市の負担額の推移はどのようになっていますか？実行委員会の総予算も同じ額で推移して、全体に占める割合に変化はありませんか？

●市民交流課長

ほとんど変化はありません。

■委員

まつりを将来的に発展させようと考えていると思いますが、総予算の中に占める市の負担額は今までと同じ比率でいくのですか？

●市民交流課長

現時点の市の負担額については、減額されてきた中での額になっています。実行委員会としては、会場費を節約しながら、浮いたお金を企画の経費に充てたいと考えていただいているようです。

■委員

例えば今後5年間を見据えて、将来的な方向性はどこにありますか？将来の展望に向けて、今の段階にいるかがわかりにくいのですが、その辺はどのように見えていますか？

●市民交流課長

市としては、安心安全な場所を提供させていただくことを考えています。まつり自体は始まってから3年しか経っていませんので、これから実行委員会の皆さんと市民の皆さんが参加できる楽し

い場を作っていく方向性を考えて行きたいと思っています。市民の皆さんの発表の場でもあるので、生きがいという面も考えながら将来的に考えて行きたいと思いますが、現時点ではその途中です。

#### ■委員

例えば5年後には、このような形を作り上げようと、そのためには現時点ではこのように予算を使って、来年度にはステップアップしますといったことの上で、予算が使われていきますということが見えないと、この予算が妥当であるかの判断がしにくいと思います。

#### ●市民交流課長

現時点では、将来の方向性を考えている途中の段階です。まつりが始まって3年ですので、そろそろそういったことを考えて行かなければならない時期に来ていると考えています。

#### ■委員

一般的に事業は3年たったら固定していかないと上手くいかないです。将来を見据えた予算取りをし、その上で市と民間との業務の割り振り、市の職員がどう関わっていくのかを考えていかないといけない時期に来ていると思います。今年はどうしようというのを続けるのでは計画性に乏しいと感じます。

#### ●市民交流課長

昨年度はアンケートもとらせていただき、反省会も行いましたので、そのような振り返りをもって、事業をやって行きたいと思っています。

#### ■委員

現時点の会場費の650万円が、妥当かどうかかわからないと思っています。例えば、本当は1,000万円必要なのかもしれませんが、例えば、5年後にこのようにして、市民の参加を募っていくためには場所をもっと広げなければならないのかもしれませんが、そのような将来的な計画の中で予算取りをしていく必要があります。札幌のよさこいソーラン祭りなどは、メインの会場と違う会場がいくつもあります。そのような形での盛り上がりを目指して行くのであれば、予算も変わってくると思います。そのようなプロセスの中でこの予算が妥当なのか検討しながらやっていかないと、毎年はこの予算だからこれでいいという考えでいくと、結局その時、その時の形で終わってしまうと思います。

#### ●市民交流課長

毎年度、実行委員会ではどこの会場でやろうかということを決めて進めていますが、実行委員会の中では、そのような検討もしていただいています。

#### ■委員

各町でやっていたまつりが集約的に終わって来ていますが、逆に各町のまつりを存続させて、サ

テライト会場として盛り上げていただく方法もあります。それによって各地域の市民に参加していただいて、全体としての参加者を増やすという方法もあると思います。その辺のプロセスを考えただ上で予算取りをした方が理解を得やすいと思います。

### ●市民交流課長

伊勢まつりの顧問の中には、昨年度で終了した御菌ラブリバーふれあいまつりの実行委員長に入っていますので、そういった方のご意見も参考にさせていただきたいと思っています。

### ■委員

伊勢まつりを見ていると、会場へ行くのが大変です。車社会なので駐車場の問題などがあり、まつりを盛り上げて行くには地域が狭すぎると感じています。今の会場だけですと、これ以上の発展は期待できないと思っています。そういった点からもサテライト会場で全体的に盛り上げる形で考えられた方がよいと思います。

それから、まつりの日のシャトルバスも市内にもっと路線を増やした方がよいと思います。皆さんが楽しみにして、そこに行く交通手段があり、まつりに行こうということになるのが、まつりを発展させる大きな要素だと思います。今のままだと、市民みんなが参加しているという感覚にはならないと思います。

会場がサテライトになれば、会場ごとに分科会を作って考えて行くことになると思います。市の中心部でやるまつりに、各町から協賛金をもらうのは難しい面もあると思いますので。サテライト会場でやるということであれば、その地域の商店や企業からも協賛金をいただける可能性も出てくると思います。まだ旧伊勢市と旧町村とが分離しているように思います。その辺りについても考えていただければと思います。

中長期の目標の中で計画を立てて行くことがこれからは必要だと思います。

### ■会長

予算については、主催はあくまで実行委員会で、後援で市が入っているという形だと思いますので、実行委員会の方で会場を3つにしたい、4つにしたいということになった場合には初めて行政が予算化をどうするかということになるかと思っています。ですので、行政の方で計画を立てて会場を増やすことなどを考えて行くものではないですね？

### ●市民交流課長

はい。

### ■会長

肝心なのは、そのニーズをどのように吸い上げるかという仕組づくりだと思います。

### ■委員

中長期的なプロセスは市がつくらないとできないと思います。

■会長

行政から可能性を示唆するという事はできると思います。それを実行委員会がどのように判断するかということになります。ファシリテートで上手く立ち回っていただきたいと思います。

■委員

この事業については、今後もこの形で継続したいと思っていますか？

●市民交流課長

はい。

■委員

目標は団体を増やすことですか？参加する人を増やすことですか？

●市民交流課長

市民全体の参加型のまつりがないので、まつりを通じて伊勢を元気にしたいというのが一番です。

■委員

成果はあがっていますか？

●市民交流課長

アンケート結果からみて、段々良くわかってきて、良いというご意見はいただいています。ご指摘を受けたことについては、次の年に修正しています。

■委員

神嘗祭と伊勢まつりを分けたのは良かったですか？一緒の方が人はたくさん来られるような気がします。

●市民交流課長

元々、ターゲットが違うと考えています。どうしても市民のまつりは土日開催を考えていますので、今年は暦のうえで一緒に開催しますが、神嘗祭の15日、16日と暦の土日は合わないと考えています。

■委員

分けた背景には宗教の問題等もあるのかなと思ったのですが、純粹に市民参加のまつりと神嘗祭とを分けたのですか？

●市民交流課長

まつりの目的が違いますので分けさせていただきました。

■委員

団体主体の発表会というよりは、オープン参加と考えていただいた方がより市民のまつりになると思います。

●市民交流課長

大道芸や少人数の学生の手品など参加可能ですので、現状でも広く門戸は開かれている状態です。

■委員

基本的にはPRが足りないと思っています。

■会長

PRについては、4つの視点の公平性の部分にも当たってくると思います。公平性の部分については公益性が高いとの自己評価がありますが、そうではなくて、市民の人に等しく声をかけられているか、それで参加を引き出すことができるかが問われていると思います。PRの努力を自己点検していただいて、それで公平性を保っているという認識を持っていただきたいと思います。

まとめの作業に入りますが、公平性については今の意見でお願いいたします。目標についてですが、いろいろな方に参加していただくということで数が目標になってくるとは思いますが、事業目的が市民の一体感の醸成を図る、市民文化の向上を図るということですので、そういったものが実現できているかということも測っていく必要があると思います。アンケートを取られたということですので、満足感などがどのように上がっているかを目標に定めて行ったほうが良いと思います。質的なものをどう捉えていくかで、アンケートを上手く使っていただきたいと思います。

■委員

参加された方はあまり否定的な意見はアンケートに書かないと思います。参加されなかった方に、なぜ参加されなかったのかを聞けば、そこが改善のポイントになると思います。そちらの意見の吸い上げを検討していただきたいと思います。

■委員

実行委員会のメンバーは1年交代ですか？

●市民交流課長

ほとんど変更はありません。

■委員

一年交代で委員が変わってしまっは、せっかくとったアンケートの結果を反映させるのが難し

くなると思ったので質問しました。

●市民交流課長

ちなみに、昨年は9月に開催しましたが、アンケートの結果9月では暑いということになり、今年は10月に開催させていただくことになりました。

■会長

アンケートの目的としてニーズの把握があると思います。それと、目的を果たしているかという満足度調査という側面がありますので、それを盛り込んだ形で実施されていくのが良いと思います。

●市民交流課長

少ないですが、ホームページからも参加していただいた方に対するアンケートをしています。それらもこれからの材料にしていきたいと考えています。

■委員

このまつりのメインの行事は何ですか？

●市民交流課長

すべてがメインです。どれがメインというのは決めていません。

■委員

そうすると盛り上がりません。

●市民交流課長

それをこれから考えていかないといけないと思っています。ただ、誰かを呼んできてそれをメインとすると、市民のまつりとはならないと思いますので、その辺りも実行委員会の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

■委員

例えば三社祭だと神輿の行列がメイン行事です。メインの行事があるまつりは人が集まりやすいと思います。メインの行事を育てた方が良いと思います。

●市民交流課長

伊勢まつりはタイムスケジュールがありますので、自分の見たいものを見ていただいて、そのついでにいろいろと見ていただくのが、きっかけになると思っています。

■委員

事業目的の中には市民文化の向上とありますが、市民文化の向上を図るという面ではどのように

考えていますか？

●市民交流課長

伊勢まつりは市民の方の発表の場も兼ねています。市民の皆さんに見てもらうために（参加者は）がんばりますので、文化の向上にもつながっていくと思います。

■委員

市民文化の向上についても、しっかりと考えていただきたいと思います。

■会長

実行委員会にお願いすることになりますが、パンフレットに実行委員会からのメッセージ性が弱い気がしますので、（市から）ご助言していただければと思います。

少し散発的になりましたが、以上が意見となりますので、事務局の方でまとめていただきたいと思います。それでは、伊勢のまつり開催事業については以上にしたいと思います。

## 伊勢志摩広域観光活性化事業

### ■会長

それでは、二つ目の事業に入っていきたいと思います。伊勢志摩広域観光活性化事業について、担当課の方よろしくお願いします。

### ●観光企画課長

よろしくお願いします。伊勢市では観光の担当課としまして、観光企画課と観光事業課の二つの課があります。観光企画課では伊勢市の観光振興と誘客宣伝、情報発信に取り組んでいます。観光事業課では、各種の観光行事、イベントや来訪団体の接遇、おもてなし等を行っています。観光企画課の事業内容につきましては、資料にお示ししたとおりですが、この中の観光振興につきましては、市民力を結集した事業やバリアフリーの観光向上事業等に取り組んでいます。誘客宣伝、情報発信については、社団法人伊勢市観光協会と共同運営するホームページや観光パンフレットによる観光の情報発信、外国人観光客の誘客等を実施しています。伊勢志摩広域観光活性化事業は誘客宣伝、情報発信のうち、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町等、伊勢志摩地域の行政団体や観光事業者等が社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構を組織し、行政区域を越えて一体となって観光客の誘客、情報発信を行うもので、その負担金を支出するものです。総合計画では、6.産業の中の、「豊かな資源で集客するまち」に位置づけられています。

伊勢志摩広域観光活性化事業は伊勢志摩観光コンベンション機構が実施している事業です。情報発信事業、フィルムコミッション事業、誘客促進事業、観光基盤整備事業、伊勢志摩キャンペーン事業、学生団体誘致事業という事業を行っています。社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構ですが、会員は全部で108会員（H23.6現在）、行政の会員が9会員、その他観光事業者等で99会員となっています。職員は13名配置しています。伊勢市職員が2名、鳥羽市職員が1名、志摩市職員が2名、南伊勢町職員が1名、三重県職員が1名、三重交通1名、近畿日本ツーリスト1名、臨時職員等4名、計13名で業務をしております。

情報発信事業の中身ですが、テレビでは、三重テレビの「ええじゃないか」という番組を三重県では水曜日の19時から放送されています。放送されている区域としては、三重、奈良、栃木、神奈川、埼玉、千葉、京都等での放送となっています。1年間全54回の放送があり、(番組内容として)伊勢志摩地域はそのうち14回、伊勢市は4回取り上げられています。ラジオでは「伊勢志摩リゾートコンシェルジュ」をFM三重で2010年4月から10月まで放送されていました。それから、パンフレットを作成しています。日本語だけでなく、英語、中国語、台湾語、韓国語も作成しています。また、ホームページの運営をしています。各種媒体への情報提供として昨年は10誌に情報発信をしています。

次にフィルムコミッション事業についてですが、テレビ番組や映画のロケ協力やエキストラの手配をしています。平成22年度の間合せ件数が62件で、28件が撮影等実施となっています。テレビ番組にも協力をしています。テレビコマーシャル、映画のロケへの協力もし、「逆境ナイン」、「小さき勇者たち〜ガメラ〜」、「半分の月が昇る空」の誘致実績もあります。媒体取材等にも対応してい

ます。

誘客促進事業については、名古屋から伊勢への直通バスの運行支援を行っています。名称は「美しい国エクスプレス」で、平成 22 年度の実績は伊勢志摩乗降人員が 7,685 名となっています。次に各種集大会の誘致と開催進行を行っています。平成 22 年度は 8 件、参加人数は 15,470 人となっています。次に観光PRとして観光展への出展を行っています。神戸まつり、旅フェア、T I C 東京等、首都圏、関西の方へ行っています。次に外国人観光客誘致推進事業にも参画しています。次に伊勢志摩地域内周遊促進事業等を実施しています。

観光基盤整備事業については、研修会等を実施しています。おもてなし向上委員会を組織して、3 回実施しています。また、おもてなし向上委員会の中で、二見浦の海水浴場の清掃も行っています。各種団体との連携ということで、その他のコンベンションの組織と一緒に連携をとって情報発信に努めています。次に観光動向実態調査として伊勢志摩地域のアンケート調査を 13 箇所年 4 回実施しています。合計 1,789 件のアンケート調査を実施しており、現在分析中です。

本体の事業ではないのですが、伊勢志摩キャンペーン事業の事務局をコンベンション機構が担っています。平成 25 年の第 62 回神宮式年遷宮を契機に神宮をメインテーマに宿泊をメインとした各種情報発信事業を平成 17 年度から実施をし、毎年 10 月から 3 月の半年間、キャンペーンを実施しています。これは行政と民間とが協力して実施をしています。構成団体としては、行政と観光協会、商工会議所、近畿日本鉄道、三重交通となっています。伊勢志摩地域のイベント情報の共同発信や関西、東海、関東圏を中心とした宣伝、近鉄沿線での宣伝、旅行会社を通じた各種商品展開を実施しています。

学生団体誘致事業については、修学旅行の誘致を行っています。そのための体験学習資料を作成しています。訪問しているところとしては、首都圏で公立中学校、関西圏で公立小学校、長野県へ行っています。修学旅行では体験を求められますので、体験学習発表会を実施しています。昨年は川崎市で 32 名にご来場いただきました。また、体験学習指導者研修会を実施しています。現地視察招聘として、大阪市、豊中市、堺市の小学校長、旅行会社の方に伊勢志摩へ来ていただきました。旅行会社中心の現地視察招聘も行っています。

事業の 4 つの視点の自己評価結果について説明します。社会的需要としては、景気動向が不安定な昨今において、観光消費にかかる期待は大きく、観光庁の設置など、国も施策として観光を推進しようとしています。また、全国から見れば、伊勢は単独よりも伊勢志摩として見られますので、市町単独で行うよりは、スケールメリットを活かして横の連携を持ってやっていかなければならないと考えています。

公平性については、会員として特定の民間事業者も参加しており、それらの事業者に偏ることもありますが、伊勢志摩地域の観光振興であり、行政の負担金が多いところです。伊勢志摩地域全体として、公平性を保っています。

業務改善については、コンベンション機構への負担割合が増大していますが、スタッフが行政からの派遣が主体であることから、専門性の維持が課題となっています。ただ、別の専門性を持ったスタッフも雇い、一般の行政スタッフが行うよりも元民間の方に来ていただき、業務改善をしているといった部分もあります。

民間委託については、伊勢志摩地域の行政と民間の資本で運営を行っている社団法人ですので、

行政から見るとコンベンション自体が半民間委託といった位置付けがされると思います。コンベンションとして直営で行っている事業もあり、業務委託で実施している事業もありますので、民間委託という手法を取っているのも事実です。以上です。

#### ■会長

ありがとうございます。それでは、委員の皆さんから質問、ご意見をいただきたいと思います。

#### ■委員

伊勢志摩地域は観光で経済が成り立っているのですが、こういった事業は非常に重要なことだと思っています。目標のところは、なぜ、神宮の参拝者数になっているのですか？実際の事業とあまり関係がない様にも見えますが。

#### ●観光企画課長

目標数値については、総合計画の目標値を持ってくる必要があります、総合計画の中でこの事業に当てはまる数値が中々難しく、伊勢市の観光客は神宮の参拝客数をひとつの指標としていることからこの数値を選びました。

#### ■委員

目標数値について、平成 24 年度は遷宮前でもう少し増えそうな気がしますが、その点はいかがですか？

#### ●観光企画課長

総合計画策定時（平成 20 年度）では、伊勢神宮の参拝者数の 700 万人台というのがあったと思います。これとは別に観光振興基本計画がありますが、その中では平成 25 年には 1,000 万人という目標もありますが、数字ですので、高い目標を持つのも事実ですし、こちらの中では 700 万人台というのを取らせていただいたということになります。時点が平成 20 年度ということで。

#### ■委員

事業費が平成 20 年度と 21 年度が突出しているのはなぜですか？

#### ●観光企画課長

この年度は、コンベンション機構が観光庁から観光圏という事業をしてもいいとのことで指定を受けています。そのような事業を平成 20 年度、21 年度と実施していたので、事業費が大きくなっています。平成 22 年度も事業を上げているのですが、少し規模が縮小されて、平成 23 年度については観光圏整備事業として市町から（事業費を）出す分がなくなり、新たなものになっています。

#### ■委員

民間委託にも絡んできますが、商工会議所や観光協会も事業に絡んでいますか？

●観光企画課長

実際に会員になっていただいていますので、商工会議所や観光協会も入って、コンベンションの中で活動していただいています。

■委員

伊勢、鳥羽、志摩は外から見れば一緒の地域ですので、民間も市も一体となってやっていかないといけないと思うのですが、あまりそれが見えないように思います。もっと民間との連携を強めてもらった方が良くはないかと思えます。

●観光企画課長

観光という分野は、観光客に来ていただきたいことから関西、中京、関東やもっと遠いところへの情報発信をしていますので、市内の方への周知が少なくなっていることもあるのかと思えます。

■委員

テレビの事業については、東京が入っていません。なぜ東京が入っていないのですか？また、海外への情報発信はどのように行っているのですか？

●観光企画課長

テレビに関しては、確かに東京は入っていませんが、関東圏の方では栃木や神奈川、埼玉、千葉へは、テレビの「ええじゃないか」での情報発信をしています。東京での観光PRも欠かさないように行っています。

■委員

東京駅でも、あまり三重県のポスターも見ません。

●観光企画課長

東京駅での広告は非常にお金がかかります。以前に貼ってもらっていたこともありますが、1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月単位で変わってきますので、年間を通してというのは難しいところもあります。

■委員

民間の事業者単位では難しいので、こういったものこそ公でやってもらえると良いのかなと思えます。

海外への誘客はどのようになっていますか？

●観光企画課長

誘客促進事業のところで、外国人観光客誘致推進事業への参画にもありますが、豊橋の方のコンベンション機構等と一緒に外国人の方に来て頂いて、伊勢や豊橋の良さを知っていただく事業を実

施しています。それと鳥羽市伊勢志摩観光圏外国人誘客促進協議会という組織があり、そこが毎年中国へ行くので、コンベンションもそれに参画し、中国のエージェントへの売り込みを行っています。

●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

今年度につきましては、多言語化したガイドブックを海外のお客様が現地目に見ていただく必要があると思い、三重県が入っている外国人誘客促進協議会を活用して、英語、中国語、台湾語、韓国語のパンフレットを現地の日本事務所の方へ設置いただくように取り組んでいます。

■委員

社会的需要の自己評価結果について、円高や東日本大震災の影響がかなり大きいと思いますが、平成20年度から25年度にかけての観光振興プランを見直すことは考えていませんか？背景が変わってきているので、そのままの目標数値で良いのかなと思います。

●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

観光振興プランは今年度時点修正を行い、見直す予定でおります。

■委員

観光消費の数値も見直しますか？

●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

統計数値も変わってきており、当時、希望的な観測で書いていた部分もありますので、その辺りも鑑みた上で、今年度見直しを行う予定になっています。

■委員

公平性について、加入している団体に偏る場合もあるとありますが、偏ってはいけないのではありませんか？

●観光企画課長

ほとんど偏りはないと思います。伊勢志摩地域全域を潤わせるための事業です。外国人の招聘などで、食事をしていただく際に、コンベンションの会員のお店で食べていただくこともあると思いますが、基本は伊勢志摩地域全体の観光事業者の皆さんのための事業だと考えています。

●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

例えば、先ほどから紹介させていただいているパンフレットを印刷する場合の印刷業者については、会員の民間事業者の中から相見積を取って、業者選定をさせていただいています。会員でない民間事業者には声を掛けさせてもらっていません。そういった意味で偏るということはあるかもしれませんが、会員のメリットもないと、ということで、そのような形をとらせていただいています。

## ■委員

業務改善について、スタッフが臨時職員を除いた9名中7名が行政職員ですが、そのため、専門性の維持に課題であるとのことですが。

## ●観光企画課長

ここに書いた内容としては、行政からの派遣職員となると2年が原則となります。1年目は全く観光がわからないまま業務をし、2年目で少しわかった時点で替わらなければならず、また新しい職員になるということで、専門性について課題があるのは否めません。業務改善については、今は業務が増えるばかりで、改善には至っていませんが、最終的には4市町の観光協会が集まったような組織ができれば良いと思っています。その中でプロパーの職員を雇うのが良いと思っています。

## ■委員

専門性の維持について、コンベンションでは大学や大学院との連携が書かれていますが、それは具体的な話として進んでいますか？

## ●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

現状では未着手となっています。

## ■委員

未着手だけど、検討はしているということですか？

## ●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

そうです。ただ、専門学校が大学、大学院等に入るかという議論は別に置いておいていただきたいのですが、観光を専門とした専門学校とは連携を取り始めています。例えば旅行会社に就職しようとしている専門学生に伊勢志摩に来ていただいて旅行商品をつくる授業を受けていただき、コンベンションの職員や会員が学校へ出向き、学生の作った案が旅行商品になるのかどうかをレクチャーするなどして、次世代の人材育成については一部取り組んでいます。

## ■委員

観光事業を推進する上での一番のネックは何だと考えていますか？

## ●観光企画課長

日帰りの観光客が多く、宿泊を絡めた2泊3日といった形に持っていければ良いなど考えています。

## ■委員

日帰りが多いのは、近辺の人しか来ないということです。

### ●観光企画課長

三重県内、愛知、大阪などの方が多いのでは事実ですが、首都圏、北海道、九州などの遠隔地からの誘客を目指しているところです。これは、宿泊をしてもらう、公共交通機関を利用してもらうことを目的として実施しているところです。

### ■委員

伊勢志摩は公共交通機関を利用して来ていただく観光客にすごく不親切なまちです。例えば、電車で来た場合、後の交通機関は何ですか？

### ●観光企画課長

周遊でいくのであれば、三重交通のキャンバスというバスに乗っていただくと観光施設を周れます。

### ■委員

どういうタイミングで、どこにどのように宿泊すればよいかいいのか。伊勢市の政策を見ると、駐車場を整備する等は多く、いわゆる車を中心とした考え方です。これだけの観光地なのになぜレンタサイクルがないか不思議です。

### ●観光企画課長

一応、伊勢市駅でJRがしていますし、観光協会も外宮前でしています。最近増加傾向にあるようです。

### ■委員

他の観光地に行くと、レンタサイクル業者がたくさんあります。外国人には自転車で周る方が多いです。伊勢に何業者あって、鳥羽にはどこにある、志摩ではどこにあるということがありません。電車で移動して、そこで周るということがすごくしづらいと思います。

日帰り圏からは来やすいですが、宿泊客は来にくい観光地だと思います。公共交通で来た人がもっと観光しやすいように整備していかないと、宿泊客は来てくれないと思います。車で来ない人に対する観光事業を行わないと宿泊者は増えて行かないのではないかと思います。

### ●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

確かに、お客様の動きをみると、一日目で内宮などを周られるのではなく、志摩の宿に泊まられてから、1コインで志摩の宿と内宮前を結ぶバスで訪れる方も多くみられます。宿と内宮前を結ぶ事業は志摩市の事業ですが、こちらとしては、情報発信等を通じてその事業を応援しているところです。

バス等の二次交通が弱い地域で、地域間の移動には一次交通でないと移動できないという弱点もありますので、近鉄、三重交通と組みながら商品展開を考えていきたいと思っています。

## ■委員

例えば鳥羽に泊まって、伊勢、鳥羽市、志摩を周るのに1日1,000円あれば乗り降り自由のチケットを出すなど、どこをどう動いても一日1,000円で過ごせるといった連携がとれると良いです。

また、JRのCMのインパクトは大きいです。あれを見るとちょっと行ってみようかと思えます。遠くの方に来ていただくには、行ってみようかなと思わせる必要があります。こちらから情報を発信することも重要で、継続してやらなければならないですが。

最近TVで伊勢志摩が取り上げられことが多いですが、ほとんど内容に違いがないように感じます。もう少しPRを広角的に見られるようにしていただくと良いかと思えます。式年遷宮が終わったらしぼんでしまうのではないかと思います。

## ●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

今、まさしくいただいている課題で、平成25年度のご遷宮、その翌年の平成26年は大丈夫かと思えますが、平成27年度以降、次のご遷宮までの落ち込みをどれだけ緩やかにするかが課題です。

## ■委員

増加を目指さないと落ち込んでしまいます。上げる目標を持って、フラットになって上出来といったところではないですか。

## ■委員

今回については、熊野古道が世界遺産に登録されたことを踏まえれば、落ち込まずに行くことも可能ではないですか？熊野古道とセットで広域的な観光プランを考えれば、落ち込みをなくし、長い期間いけるのではないのでしょうか。伊勢志摩だけで考えるのではなく、県内の他の観光資源、京都、奈良との連携をしていけば、それほど大きな落ち込みはないと思います。

## ■委員

セントレアとのバスの運行が必要ではないですか？飛行機を降りたらダイレクトで伊勢まで来られる手段が必要だと思います。遠方からだと飛行機を使う方が多く、ましてや海外から来ていただくには飛行機を使うので、ダイレクトな交通手段が必ず必要になってきます。

## ●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

セントレア開港当初は鳥羽まで直通のフェリーがありましたが、採算が合わずなくなりました。

## ■委員

セントレアから伊勢志摩へ観光客を引っ張って来られれば良いと思います。成田空港を降りると、かなりのところへ直行バスが走っています。成田に降りれば、自分のまちに帰れることができるという感覚は非常に大きいので、そういう努力も必要なのではないかと思えます。

情報発信も大切ですが、観光客にやさしい観光地をどう作るかを考えて行く必要があると思いま

す。

また、アンテナショップが流行っていますので、アンテナショップをつくるのもいいのではないかと思います。

●観光企画課長

費用対効果で苦しいところもたくさん聞いていますが、首都圏は情報発信をする中で、非常に大切だと思っています。

■委員

知ってもらおうという面での効果は非常にあるのではないかと思います。あとは夜行バスです。若者は夜行バスを使います。費用が安いので人気があります。

●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

夜行バスは、東京は2便、九州は1便出ています。

■委員

それをもっとPRしていく必要があると思います。

■委員

自己評価でコンベンション機構の負担が大きいと書いてありますが、伊勢市の負担は大きいですか？

●観光企画課長

行政の負担金は平成23年度で800万円です。鳥羽市、志摩市も同じですが。

■委員

これを減らす可能性はありますか？

●観光企画課長

今のところありません。

■委員

伊勢志摩キャンペーンと学生団体の誘致がありますが、具体的な効果は上がっていますか？

●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

伊勢志摩キャンペーンにつきましては、毎年10月から3月までの下期と呼ばれる期間に実施するキャンペーンで、神宮に関しては1月、2月と初詣からお客様が多い時期ですが、観光の分野としては特に2月が冷え込む時期、また11月あたりはお客様の動きが鈍くなる時期になります。その時期

を狙ってやっているキャンペーンです。

他地域と比べても、東日本大震災の影響等で観光客が減少しているなかで、落ち込み率も下げ止まっていると評価しています。

学生団体誘致事業についても、修学旅行という形で伊勢志摩を訪れていただき、大人になってから修学旅行を思いだして来て頂けるよう、将来のリピーターになっていただけるように取り組んでいます。実際、平成 22 年度につきましては、中学校、横浜 1 校、川崎 2 校、渋谷区 1 校で約 620 名の生徒さんにお越しいただきました。平成 23 年度は地震の関係で東北へ向かっていただいていた学校が、こちらに振り替えていただいています。現在のところ 16 校、2,000 名を超える生徒さんがこちらへ修学旅行で来ていただけると把握しています。

### ●観光企画課長

学生団体の誘致については、継続していくことが必要だと考えています。地道な努力が必要だということで、今は少ないですが、5 年、10 年と続ける中でもっと数が増えてくるのではないかと思います。

### ■委員

日常的に二見では、学生が増えているように思います。合宿なども増えて、土産物通りも賑わっています。

### ■委員

現在社団法人ですが、公益法人へ移行するのですか？

### ●伊勢志摩観光コンベンション機構職員

公益法人へ移行するように、現在整理をしています。

### ■会長

まとめの作業に入ります。今回は広域事業ですので、観光客にやさしい観光地づくりは伊勢市の事業になると思います。広域事業としてどう評価するかということになりますので、例えば、公平性の部分については、コンベンション機構の負担金が他の自治体と比較して伊勢市の負担が妥当であるかどうかという観点がまず必要です。それから、市の税金を使うからには、市内業者への還元がきちんと公平になっているかどうかという観点からの評価が必要ですので、そういった観点から見直しをしていただきたいと思います。

広域の事業について、現在の広域性と（伊勢志摩地域を越えた）もう一つ大きな広域性が今後課題となって来るかと思っています。そういった点でもご判断いただければと思います。

外国人観光客については、三重県に来るのではなく日本来て、長期滞在で全国を転々とするので、大きな広域の連携を考えていく必要があると思います。どういうルートで周っていただくかという幅広い視点が必要かと思っています。うちの地域に来てほしいというエゴイズムが当然ありますが、それを押さえた上での連携が必要だと思います。

また、リピーターをどう作るかですが、修学旅行は学習効果がどうあったのかを学校では評価し、その上で来年もまた行きたいということになります。一般観光客でもそうですが、同じルートで同じものしか提供できなくても、何度も行ってみようという魅力をどう出すかということになります。一回来たら終わりではなく、ご遷宮後も来てみようとさせるものをどう確保するかが必要になってくると思います。その点を考えていただきたいと思います。

民間委託については公益法人化を目指しているということで、高く評価される場所かと思いません。

(この地域は)観光振興が大切ですので、公益性は非常に高いと思います。事業としての成功を祈っています。まとめとしては以上になります。

これで本日の点検を終わります。(終了)